

明海大学 不動産学部

不動産の不思議

学生たちの視点と発見

第236回

【学生の目】

海のある街に住みたいものだ。海に見える家なら、なお住んでみたい。そう思って見つけたのは、海近くに立地する高層の立派なマンションだ。晴れた日に窓から見る海の景色は最高だろう。眼下には子供が遊ぶ公園や保育所、小学校があり、賑やかさもある。子供が帰った後は静かな海の夜景も楽しめる。

バルコニーのデザイン

この建物の特徴は、バルコニーの手すりが見えない点だ。海の眺望を最大化するためと思われる。バルコニーの椅子にくつろぎ、お酒を嗜むか

つこい大人が想像できる。私も仕事に就いたときは、そんな暮らしをしてみたい。

周りには丹精をこらしたマンションが立ち並ぶ。道が真っ直ぐで見通しがよく、風通しもよいので、高層マンションが多いものの、圧迫感がなく気持ちがいい。海に近いからか、普通の住宅地のイメージとかけ離れたハワイチックでおしゃれな街だ。散歩する夫婦や高齢者、ランニング

洗濯物、目立たない工夫を

透明にした。実際は物干しに使う時間が長い。自然乾燥は悪くないし、物干しを手すりの高さに抑える工夫もある（木下さわこ「不動産の不思議第24回」14年3月11日号）。他方、外から見られることへの配慮が十分でなく、高級感が低下している。理由はマンションが大きいことだ。下層階以外全ての手すりが透明のため、目に入る洗濯物が多く、その量が圧倒される。予防方法を考えた。第一は手すりの材質を多様化する方法

する人も多い。私もその一人だが、少し気になる点がある。

外からマンションを見ると、バルコニーの色とりどりの洗濯物が見えることだ。公園、保育園、小学校にいる子供や付き添いの親、散歩する夫婦などいろんな人の目にも入る。色とりどりと表現したら聞こえはないが、正直綺麗な景観には見えない。

設計者は内からの眺望を重視して

付きに見える材質とする。第三は洗



海の近くの立派な大型マンションだが...

洗濯物を干すときは閉めて視線を遮断し、景色を楽しむときは解放するジャロジー式にする。ジャロジーを現在の手すりの外側や内側に付けることも可能だ。

【教員のコメント】

お洒落なオープンテラスが増えた。珈琲、会話の人も、パソコンに向かう仕事人も。自己実現の場として人々が集い、道行く人にはその場の設えと人々が素敵な景色に映る。演者と観客が評価し合う関係はマンションの暮らしにも求められる。



中村 大智

不動産学部3年